

# 原子力防災体制を確認



## 平成26年度青森県原子力防災訓練実施



11月8日、青森県・関係市町村の共催により、東北電力(株)東通原子力発電所1号機を対象に、原子力防災体制の確立、防災関係機関の緊急時対応能力の向上を図ることを目的とし、約70機関、約1400名(うち住民約700名参加)が参加し、原子力防災訓練が実施されました。

村では、地震・津波による大規模災害と原子力災害の複合災害を想定し、防災センター内に村災害対策本部を設置し、青森県災害対策本部との通信連絡、各種対策の検討や情報の共有化、そして、国、県、関係市町村、事業者によるTV会議を行いました。

また、防災無線、広報車などにより、住民や村内の医療福祉施設を対象に避難指示等を伝達する訓練も行いました。

医療福祉施設(村内5施設)では、利用者や職員等合計179名が参加し、施設内での情報伝達や屋内退避の方法を確認していただきました。

さらに、住民が参加し、陸路および空路による避難訓練を実施しました。

「陸路避難訓練」では、桑原、蒲野沢、鹿橋、石持地区を対象に、約35名が各地区の一時集合場所に参集し、バスにより、青森市へ避難しました。

「空路避難訓練」では、国道338号が津波で寸断されたとの想定のもと、老部、白糠地区を対象に、約10名がヘリにより青森市へ避難しました。

避難先(青森県総合学校教育センター)では、県などの関係機関が主体となり、体の表面に放射性物質が付着していないか確認する汚染検査などが行われました。

この他にも、防災関係機関等が様々な項目の訓練を実施し、原子力災害発生時の対応を確認しました。

訓練にご参加いただいた住民の皆さんは原子力災害が発生した際の行動等を確認しながら、真剣に取り組んでいました。

村としては、原子力防災対策に万全を期すため、今後も定期的に訓練を実施していくこととしていきます。

ご協力ありがとうございました。

### 医療福祉施設屋内退避訓練



利用者へ伝達

- 換気設備の停止
  - 窓・扉の閉止
  - 施設の出入り制限
- などを実施

### 災害対策本部設置運営訓練



関係機関との通信連絡



状況整理と対策の検討